

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成19年6月21日(2007.6.21)

【公開番号】特開2005-87749(P2005-87749A)
 【公開日】平成17年4月7日(2005.4.7)
 【年通号数】公開・登録公報2005-014
 【出願番号】特願2004-329724(P2004-329724)
 【国際特許分類】

A 4 5 C 1/06 (2006.01)

【F I】

A 4 5 C 1/06

【手続補正書】
 【提出日】平成19年3月7日(2007.3.7)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項1】

紙幣収納部の前側片の口側の中央部付近に、紙幣の滑り押し出し用切欠き部を設けて成ることを特徴とする財布。

【請求項2】

複数の紙幣収納部を重ねて設けて成る、請求項1に記載の財布。

【請求項3】

前記複数の滑り押し出し用切欠き部の位置をずらして設けると共に、各々の紙幣収納部に於いて中央部付近に滑り押し出し用切欠き部が位置するように、紙幣の両端が収まる位置を決めるための紙幣収納位置調整接合部を設けて成る、請求項2に記載の財布。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0004
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0004】

人間の手、指はいろいろなことをする上で一番良く使う部位であり、使うことの頻度が多いということは怪我をする確率も高いものである。包丁を使っているとか、紙を滑らしてしまったりとかで切ってしまうことなど結構多いことであり、包帯やバンドエイドなどで保護している時がある。また、脳梗塞等によって半身が若干不自由で指の使用が思うようにならず、時間をかければという人も多くなってきている。しかし指の使用が若干不自由な人にとっては、財布から紙幣を指ではさんで取り出すという行為は難しく、やたらに時間がかかって支払いの時に店の人や、支払い順にうしろに並んでいる人などイライラして感情を害すようなことがあり、まだ日本ではこれら身体の一部が不自由な人達にゆっくりでもいいから頑張るといふモラルは定着しておらず、その人を見る眼が異なり、さきほども記したイライラしてしまうのが実態であり、そういう他人の眼やことばが身体の一部が不自由な人の外出等、公共の場に出ることを阻害している。また、自分の金が入った財布を他人に渡して抜いてもらうようなことは、よほど気心を知っている身内の人でないと嫌がられるものであり、このような手や指が若干不自由な人が容易に紙幣を取り出せる財布がなかった。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

結果としてわかったことは、大きな切欠き部は収納した紙幣の中央近辺に設置しないと一枚ずつ平行に滑って出てこないということである。このため紙幣の種類毎の収納部を作成したいなどとする場合であって、複数の紙幣収納部を手前側と奥側に重ねて設けるのであれば、切欠き部の位置に合わせ収納横位置を調節するために縫製したり、接着したりして紙幣収納位置調整部を形成すれば良いことがわかった。このような知見に基づいて実際に作成し、自分達健常者が手のひらで押し出すことの確認ばかりでなく、脳梗塞で指の動きがかなり不自由な人にも確認してもらったが、個人個人で滑らす部位が異なるものの障害者個人のやりやすい方法で一枚ずつ押し出すことができ、支払いの時の時間は健常者と変わりのない程度になり、おつりなど収納については時間がかかるが、個別に残っている身体の機能を使って収納することができ、障害を持っている人の顔の明るさが違っており、精神的にも自立して外出、買い物、支払いが可能になる財布が得られた。また小銭は多少動く手側のポケットに入れる人や、専用の小銭入れに入れ、小銭であれば金額的にもわずかなため小銭入れを渡すことで、店の人でも「ここから〇〇円いただきます。」という形で支払い処理してくれることもわかった。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

大きな切欠き部を、収納した紙幣の中央近辺に位置するように、紙幣収納部の前側片の口側の中央部付近に設けることによって、収納した紙幣を一枚ずつ平行に滑らせるようにして取り出すことができるようになった。また複数の紙幣収納部を重ねて設ける場合には、紙幣の収納横方向の位置をずらすと共に紙幣の中央近辺上部に滑り取り出し用切欠き部が位置するように設けることによって、手や指の不自由な人ばかりでなく、一般健常者でも使用でき、かつ健常者が指などを怪我して紙幣を指ではさめない時でも、容易に紙幣を滑らすことにより使用できるユニバーサルデザイン構造の財布とすることができるようになった。さらに滑り押し出し用切欠き部を少しずらすことによってカード収納部が設置できるようになった。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

図1はこの実施形態で通称“束入れ”の財布であり、この財布の中央に付けた折り目から両側に並べて設けられている紙幣収納部は、一側が主紙幣収納部1であり、他側が副紙幣収納部11であって、両方共に紙幣を収納した際に上部まで完全に入る深さにしてあり、紙幣収納部1, 11の各々の前側片2, 2の上部で、ほぼ紙幣収納スペース幅の中央近辺に大きめの滑り押し出し用切欠き部3, 3を形成している。この滑り押し出し用切欠き部3, 3は長円的な穴でもかまわないが試作した時に、滑り押し出す距離が少なく、比較すると切欠き形状にした方が手や指の障害レベルが異なっても対応できることが実験試作品段階でわかっているため切欠き形状としてある。この切欠き寸法は露出する紙幣部が、少なくとも幅2cm、深さ3cm位は必要であるがこの大きさや形状は制限するものでは

なく、財布の強度面、デザイン面での切欠き形状にすることも必要である。これにより指先を使わなくても、手のひらの凸部、手のひらの小指側の側面、指を曲げた時にできる甲側関節凸部等で簡単に紙幣を一枚ずつ取り出すことができる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

図2はこの実施形態で通称“札入れ”の財布であり、2つの紙幣収納部すなわち手前側の主紙幣収納部1と奥側の副紙幣収納部11とを重ねて設けるが、この際に手前側に、折り目より右側の部分が奥側の折り目より右側の部分と一体的になっている複数紙幣収納部形成用袋体6を設置し、奥側の副紙幣収納部11の右端に紙幣収納位置調整接合部5を設け、紙幣全体を左寄りに収納し得るようにし、その紙幣の中央近辺にあたる前側片2の部位に滑り押し出し用切欠き部3を設け、さらに前記複数紙幣収納部形成用袋体6を内方に曲げ倒し得るように設けていることで、副紙幣収納部11の滑り押し出し用切欠き部3での紙幣取り出し操作に邪魔になることなく副紙幣収納部11から紙幣を取り出すことが可能となるようにした。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

また前記複数紙幣収納部形成用袋体6の左側を紙幣収納位置調整接合部5によって接合することで主紙幣収納部1の紙幣収納位置を右方向にずらすように調整しているため、財布の折り目より右側が紙幣収納時の中央近辺になり、滑り押し出し用切欠き部3を容易に設けることができる。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

- 1 主紙幣収納部
- 11 副紙幣収納部
- 2 前側片
- 3 滑り押し出し用切欠き部
- 41 千円紙幣
- 42 五千円紙幣
- 43 一万円紙幣
- 5 紙幣収納位置調整接合部
- 6 複数紙幣収納部形成用袋体